

グッチョ

Guccho

「何かをし合う」意味の筑後弁！

“〇〇し合える”まちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介するマガジンです。

vol.06

担当者コラム
グッチョにあふれた夏休み



めっちゃ良いやん



今回の記事を書いたのは、生活支援課で子どもたちの生活や学習を支援する事業の担当者。執筆体制も課の枠を超えちゃいました。担当事業を利用する子どもたちが、夏休みに挑んだチャレンジに関わり、感じたことをコラムにつづりました。



「わたしと僕の夢」の子どもたちの夏休みに向けた作戦会議。感染対策をしつつ、2回開催しました。司会者や書記など役割分担をして会議

子どもの学習・生活支援の場で

祭り、海水浴、キャンプ——始まった時のワクワク感と、減らない宿題の山。誰しものが振り返る夏休みの思い出です。今年は昨年に続いて、水の祭典も花火大会も中止になりました。それでも、「今しかできない体験」が一つでいいからあってほしい。性別も年齢も、生活環境も関係なく、誰でも。

私の所属は生活支援課です。生活保護を担当し、いろんな事情を抱えた家庭と向き合っています。子どもたちの学習や生活を

支えるのも仕事のひとつです。久留米市はその業務を、NPO法人わたしと僕の夢（以下、わた僕）に委託しています。私はその担当でもあるので、現場に時々顔を出しています。そこに来ている子どもたちと先生たちの「ひと夏のチャレンジ」を振り返ります。

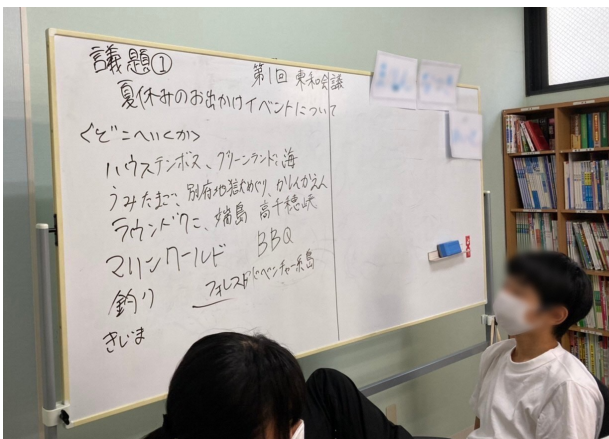
わた僕に通うのは中学生で、週2日、2時間勉強し、食事をします。今年は巣立った高校生もよく顔を出して、一緒に勉強したり、高校のことを教えたりしています。

そんなわた僕で6月頃、夏休みの思い出に何かしようという話し合いがありました。その結果、「糸島の自然公園『フォレストアドベンチャー』に行く」と「そのための資金を稼ぐための物販会をする」という計画がまとまりました。

子どもたちの中には、いろんな経験ができない子もいます。ワクワク体験も成長には大切な要素。「何とか、子どもたちにそんなチャンスを」と、私は同僚に物販会への応援を呼びかけました。

それぞれの得意を生かし合う

8月下旬、市役所の一角で物販会は開かれました。代表して中学3年の子たちが売り子に。計算が得意な子はレジ係をし、抜群のセンスを持つ子は商品をディスプレイ。いつも笑顔の元気な子が真っ先にお客



作戦会議は白熱。ホワイトボードには「ハウステンボス」「グリーンランド」などの文字が



1時間勉強したらみんなで食事。フードバンクや地元企業の寄付でさまざまなメニューが提供できています



(左・上ともに) 市役所本庁舎の地下1階の片隅で開かれた物販会は多くの客でにぎわいました。事前注文も受け、お金と引き換えに袋詰めした商品を渡しました

さんを出迎えました。

得意を生かす……。準備段階からそうでした。事前の話し合いで活躍したのは、コミュニケーションが上手なAさん。みんなの意見をうまく聞き「物販でお金を稼ごう」という発想を引き出したことで、目標額まで決まりました。イラストが得意なBさんは、「仕入れた物をそのまま売ってもおもしろくない」と、パッケージに貼るキャラクターシールを制作。手先が器用な子は、できたシールを商品にきれいに貼り、コツコツと最後まで仕事をやり遂げるCさんを中心に袋詰めしました。

物販会では、商品を通じてお客さんとおしゃべりも生まれていました。「ありがとうございます！と、とびっきりの笑顔を送る子どもたちの表情が印象的でした。」

10月上旬。子どもたちの笑顔はフォレストアドベンチャーにありました。とびきりの笑顔で思い出をつくった夏休み。でも本当のワクワク体験は、物販会というチャレンジにあったのかもしれませんが、「得意」を持ち寄ることで、初挑戦を成功に導きました。一生懸命考えた時間と経験を共有し、そこで生まれた「プラスの気持ち」をお客さんとも共有。たぐさんの「グッチョ」にあふれた夏休みの出来事でした。

(担当・ミリアム)



(上) 芥屋の大門近くの「トトロの森」にも寄り道。“映えスポット”を楽しみました(右) フォレストアドベンチャーにて。怖いけど、そろりそろりと。全身で自然とアスレチックを体験

